

第7回新しい学校づくり三好市・東みよし町地域協議会議事録

平成21年9月25日(金)6:30～9:00

辻高等学校 研修会館

【協議題】 「新しい学校の教育内容等について」

【協 議】

総合選択制について

委員

総合選択制について、わからないところがあればご発言いただきたいと思います。

委員

制度の基本的な内容は先生方がよく知っていることなので、我々委員は、細かいところを聞いても仕方がないと思います。総合選択制をどうするのかということを考えればよいと思います。

委員

センター試験を受けて国公立や私立に行く場合には、総合選択制の中の科目をとらないと進学できないのですか。

県教育委員会

センター試験の受験科目は1,2年で履修していますので、総合選択科目をとらなくてもセンター試験を受験することは可能です。ただ、総合選択科目には進学に対応した科目が含まれていますので、受講した方が受験には有利であると思います。

委員

辻高校は3年生で総合選択制をとっていますが、2年生で総合選択制をとった方がもう少し特色あるものができるのかなど、今の実情を教えてください。

事務局

2年生で導入できないことはありませんし、メリットもあると思いますが、辻高校には一方でコース制という柱があります。各コースにおいて特色ある授業を2年生から勉強し、3年生では仕上げの段階に入っていきますが、いろいろな科目を選択できる総合選択制により、コースの枠を越え進路希望に応じた学習ができます。

つまり、2年生ではコースで決められた科目を中心に勉強して、3年生では進路希望に応じてコースの勉強を深めながら、もう一方では、自分の必要な科目や興味・関心のある科目を、総合選択制を生かして学習できるということで、今のところ、3年生のみでの展開になっています。

委員

辻高校が現在実施している総合選択制は、タイプ の型だと言うことですか。

事務局

現在、辻高校は普通科のみですから、普通科の中で選択しています。ただ、総合選択制の科目の中には、専門高校が設けているような専門科目も、一部含めています。

委員

現在は2校別々に独立しているので、三好高校も現在はタイプ で実施されているということですね。

事務局

三好高校はコース制ではなく、商業科・農業科の専門教育をやっています。その場合、卒業までに必要な90単位のうち、25単位以上は専門教育をしなければなりません。

専門科目の枠は広く制約があるため、2、3年で総合選択制を取り入れています。従って進学対応などを考え、2年生で2単位、3年生で2単位の選択科目を用意しています。

委員

タイプ とタイプ のメリット・デメリット、校地の条件による制約など、もう少し説明をしていただけませんか。

県教育委員会

校地に関連してタイプ をとるかタイプ をとるかについては、前回の協議の中で校地を決めるときにお話ししましょうということだったと思います。

タイプ については大学科の枠を越えて選択するので、1つの校地でないと難しいと思います。タイプ については大学科の枠内で選択するので、校地は関係ないと思います。

委員

タイプ ・ どちらをとるのかを議論するのではなく、違いをはっきりと確認しておくことにあります。総合選択制は校地などとも関連しますので、今回は知識として確認しておくことにいたしました。総合選択制については、以上でよろしいですか。

委員

タイプ ・タイプ をどうするかという議論は、学校を1つにするのか、それとも今まで通りでいくのかという議論の中でないと、前に進んでいけないと思います。カリキュラム等を説明していただきましたが、こういうところは現場の先生方がよく知っていますので、我々は大まかな方法論だけを整理するべきだと思います。森が先か木が先かという話になりますが、

木の議論は出尽くしたので、これから森をどうするのかを提示するべきではないでしょうか。

普通科高校も十数年後には旧三好郡では1校でいけると思います。池田高は現在5クラスになっています。これから議論することは、辻高校の総合文理コースも必要と思いますが、生徒数からいうと6クラス40人で240人が全部池田高に行ったとしても、池田高1校分の普通科高校しかできません。そうなってくると、池田高校にも協議に加わってもらい、普通科高校をどうするかという議論をして、方向を提示しなければいけないと思います。また、旧三好郡の三加茂や三野の生徒の半分は、美馬郡に行っています。そこで、三好郡と美馬郡をあわせて何かできないのかなとも思います。こういう意見などを提示することも大切だと思います。

委員

枝葉末節の話が多く、幹の話がありません。枝葉末節の話は専門家に任せます。池田高を進学校として残すとか、専門高校は三好高校にするなどの形を出すのがいいのではないのでしょうか。

委員

はじめは、辻高校と三好高校を1つにするという考えでスタートしたと思います。いろいろな意見が出て、同じことの繰り返しになっているところもあります。今日の資料は今までの事がきちんとまとめられているので、よく整理されていると思います。

今後話し合いをするのは、生徒数の減少がまだありますが、スタートに立ったときの2校をどうするか。具体的に学科・コースが示されていますが、この案でいいのか。そういうところを最初に大まかに議論して、具体的な事を話していくうちに、普通科の問題が自ずから出てくると思います。

委員

総合選択制については、専門である学校現場の方にお任せするのが良いと思います。

大きな観点でお願いしたいのは、将来の生徒数が減少する中、この地域の発展は、今のままではないと思います。この資料には良いことも書かれていますが、どこの学校も考えられていることだと思います。いかにすれば生き残れるのかを考えたとき、やはり凄く魅力ある学校になることが一番大切なことだと思います。例えば、私立高校はユニークな取り組みをしていますが、この真似は出来ません。ただ、普通にやっていると、この地域が一番人口が減少しているので、ますます厳しくなってくると思います。

新しくできる高校は、県外からも希望してくるぐらいの魅力ある学校にしないといけないと思います。幸いこの地域は、地理的に四国の中心に位置しています。単に生徒数の減少によるということではなく、県にもこの地域を重点的かつ特別に力を入れていただきたいと感じています。

介護福祉士の資格取得について

委員

前回、介護福祉士について、高校段階では難しいから高校卒業後、福祉の専門学校へ進学したほうがより効果的ではないかというようなことをお話しました。

今日、この資格取得の制度が大きく変わり、必要単位数もかなりプラスされていますが、新しい学校の目玉になればと思います。と言いますのも、この地域は非常に高齢化が進んでおりますし、中学生の数も減ってきています。それから、高校卒業後すぐ就職するというところから、介護福祉士の国家資格が受けられるような学校設備の充実、教員配置というようなことに力を入れていただければと思います。

介護福祉士についての説明(福祉系高校の教員の要件や52単位の取得が必要となること等

委員

介護福祉士を育成する学校は、この地域で生徒数とか、施設・設備、教員の配置を考えると無理だということですか。あるいは考える余地があるのですか。

介護福祉基礎研修についての説明

委員

様々な課題がある中、この資格取得制度の改革など、積極的に政府に要望していったらどうかと考えます。

委員

介護職を雇っている現場にいます。

今春、「旧三好郡内で高校を卒業して働ける職場がないと、徳島市とか大阪に行ってしまう、二度と子どもが帰ってこない。だからこの地域の若い人が、高校を卒業して就職できるようにしてほしい。」という話がありました。

最近、高校を卒業して入ってきた人を現場で育てようという話が出てきました。若い人が地元で居ることが出来たら、2級ヘルパーでも良いと思います。介護福祉士を高校で取ってきた人もいますが、資格を持っているから仕事ができるとは言い切れません。2級ヘルパーの資格で就職して、現場でステップアップして介護福祉士の資格を取るのも励みになると思います。また、介護関係の専門学校は、四国にたくさんありますし、定員割れをしているところも少なくありません。

無理に介護福祉士を取れる学校にしなくても、2級ヘルパーで地元で就職して育てていくのも良いと思います。高齢者の方は、どんどん増えているのに介護をする人が足りません。若い人が残らなければ地域は寂れていきます。

委員

委員さんの意見をまとめますと、新しい学校にホームヘルパー2級が取れる「介護福祉コース」を設置しても、もしヘルパーの資格が無くなるのであれば福祉コースを設ける意味がないのではと心配していたが、資格が残るということであれば、ヘルパー2級でも十分、地元に残って就職していけるので設置する意味があるということですね。

委員

介護福祉士の資格が取れる学校ができれば、学校の目玉になるのではないかとは思っていたのですが。

委員

先ほど委員さんから、とても嬉しいお話をうかがいました。

中学生に「本校では、ヘルパー2級の資格が取得できます。卒業後、地元の介護職に就職して、さらに実務経験を積み、スキルアップして上級の資格取得を目指せます。」と展望が持てる話が出来ます。

ただし、このホームヘルパー2級の取得制度は、「当分の間ある」という表現です。これがあ限りは介護福祉コースは生きてきますが、もし無くなればこのコースを生かした出口は無くなりますので、是非ともヘルパー2級の制度が続いて欲しいと思いますし、新しい学校に特色を持たせる意味からもヘルパー2級の資格取得は大きいと思います。

委員

その他、ご意見などございませんか。

委員

その他のコースについてですが、子どもたちが地元に残るには、「情報ビジネス」も優れた教育であるし、必要だという声を聞きますので、是非作っていただけると、地域の跡取りとしても残るのではないかと思います。

委員

今後、介護福祉士の資格取得には、専門教科を52単位は習得しないといけないとか、生徒数の減少とかから見ても、福祉系の学科は作れないと資料を見れば分かります。

協議会では、どこの学校を残すとかではなくって、新しい高校のシュミレーションをして、私たちの意見として「こういう意見がありました」というのを県に報告するのが、この協議会の役割でないかと思うんです。

新しい学校のあり方等について

委員

新しい学校の規模はどれくらいかなど、いろいろな視点から意見を出して、共通認識を積み重ねていければと思います。他に質問等ありますか。

委員

新しい学校の開校は何年度になるのでしょうか。

開校年度をはっきりしてから、その上で生徒数などを見ながら考えていくことが大切だと思います。

教育委員会

平成18年3月に高校再編方針が出されました。この中に、スケジュールとして平成30年度までに再編整備をすることとしています。

実際に開校するまでには、少なくとも受験前の中学生に、何年度にはこうなるといったことを伝えなければいけないことや、開校までに校舎改築や耐震改修といった工事をしなければいけないので、開校準備に少なくとも3年はかかります。

なお、この再編方針の策定に当たっては、これまで検討委員会やパブリックコメント、地域説明会を行っています。

委員

どのような学校が必要かと考えると、この地域は農村地帯であり、この地域を活性化していける人材を育成する高校が必要ではないかと思います。

委員

以前、小学校のPTA会長をさせていただきましたが、子どもの数が減少し閉校するという話が出てきたので様々な議論をしました。地域に学校がなくなったら通学はどうするんだとか、運動会はどうするんだとか猛反対をしたのですが、子どもたちに意見を聞くと、「たっさんの友だちと一緒に学びたい」ということでした。学校規模が小さくなると、例えばプラスバンドのような部活動も小規模校では困難になります。

やはり、子どもたちのことを考えることが一番大切なことだと思います。私たち大人が、いかに集団を作ってやるか、これが地域の役目ではないかと思います。

私も、地域の小学校がなくなるときは辛かったです。しかし、小規模の集団では子どもたちはもっと辛い思いをしてしまいます。そういう意味からも、本校としての規模は、80人というのが根拠になっているのだと思います。

委員

生徒数の推移を見てみると、数年のうちに、辻高校は3クラス、三好高校も2クラスにまで減少するのではないかと思います。こういう事を踏まえた上で、現在の案にあるようなコ

ース内容や数でいいのか、議論していただいたら良いのではと思います。

委員

長期的な視点、グローバルな視点が非常に大事なことだと思います。それを踏まえた上で、我々が新しい学校について協議し、我々が作ってまいりましょう。

委員

資料には、新しい学校の教育内容についてよく提示されているので、これをまとめていけばよいのではと思います。しかし、昨年度の意見では、「小規模校にすべきではない」という意見と、「少人数で充実した教育を」という相反する意見があります。

私は少人数教育で、マンツーマンとする教育が本当の教育ではないだろうかと思っていますが、このあたりの問題を整理すればいいのではないかと思います。ただ、もう少し地域の教育はどうあるべきか考える必要があるのではと思います。

委員

出来るだけ早く統合させようと一生懸命やっていたのですが、生徒数の推移を改めて見て見ると、本当に新しい学校を作ってもいいのかという気持ちが出てきました。といいますのも、今年の設定員が65名です。来年は地域全体で55名減り、このまま減っていくと学校が潰れてしまいます。

もう一度、地域の子どもたちに、豊かな教育ができる将来の新しい学校が見えてくるように、委員さんの忌憚のない意見を出してもらえればと思います。

委員

これまでの議事録や資料等を見せていただくと、三好高校と辻高校を統合した場合の学校像というのはほぼ出来上がったのではないかと感じております。

ただし、生徒数の推移を見ますと、当初の想定よりもかなり減っております。

池田高校も現在の3年生だけが6クラスで、1・2年生はそれぞれ1クラス減っています。先ほど他の委員さんからもお話がありましたが、地域の生徒の減少により本校も現在の200人から減していかないと持たないと思います。生徒数のデータを見ると、平成27、28年には今よりさらにクラス数も減少すると予想しています。

新高校の立ち上げには最低3年はかかるというお話がありましたが、新高校が出来て、池田高校と2校でどこまでいけるんだらうかという議論もあると思います。そのあたりをどうすればいいのか、各委員さんが判断されてご意見を出す必要があると思います。

先ほど他の委員さんがおしゃったように、2校再編の形は概ね仕上がってきたと思いますが、次に生徒数の推移を見て、議論が必要なのかということを感じます。

委員

地域協議会の前に、何人かの保護者と再編のことについて話をしました。その中で、子

どもたちが多様な選択を出来る高校になると、親としては良いという声がありました。また、保護者としては、いつごろ新しい学校ができるのかという疑問を持たれているようでした。

委員

この地域に必要な高校をずっと考えていますが、やはり三好高校の農業や林業、それに介護といった福祉関係が地域には必要な教育かと思います。

一方、子どもたちや保護者が求めている高校となると、まだ目標や将来のことが決まらないので、普通科高校に行くという子どもが多いようです。しかし、時代は変わりつつあり、三好地域以外からも農業をやりたいとか出てくると思うので、絶対に農業を残してほしいと強く思います。

今、三好高校がやっている様々な取り組みが頻繁に新聞に掲載されていますが、それらの取り組みは、教室での勉強と違った生きがいとしてやっていける勉強なので、そういう勉強が出来る学校が、この地域に必要なだと思えますし徳島県下にも必要だと強く感じます。

委員

結論から言いますと、普通科高校は沢山ありますが、農業は日本の根幹であり絶対なくしてはいけないと思います。また、以前農場を見せてもらったことがあります。農場は一旦なくしてしまったら直ぐに作れと言っても出来るものではありません。

農業を残すという大前提を置いておいてほしいと思います。その中で、話を出来ればいいと思います。

委員

他にご意見はございませんか。

委員

大学進学がよく話題に上がりますが、進学希望者が少なくて困っている大学が沢山あると聞きます。先ほど2人の委員から話がありましたが、地域の伝統に密着した高校が必要だと思えます。

委員

この地域協議会も2年になります。

最初のころに生徒数の減少の問題や毎年、池田高校の教員が減っていったという話がありました。そういう中で、地域のニーズが一番という前提があったと思います。

しかし、小さな学校は作らないとなると、根底から協議し直すことになります。

委員

今まで新しい学校の教育内容を一生懸命議論してきましたが、全体をよく見渡してみると、このまま進めて良いのか、もう少しグローバルな視点で議論していく必要があるのでは

と思います。

委員

次回の協議会は、「私はこう思います」といった意見が言えるようにしてはどうか。

例えば、「私は、辻高校と三好高校を統合し、池田高校は普通科高校として考えたら、新しい高校には農業科に職業学科をくっつけるのが将来を考えたら一番よい。」といった意見を書いたものを次回の協議に持ってくるなどして、一人ひとりが自分の意見を言えるようにしてはいかがでしょうか。

委員

自由に意見を言っていただくのは当然良いのですが、この協議会は辻高校と三好高校をどうするのかを協議する会なので、その範囲内で意見を出していただきたいと思います。

もし、委員の皆さんがその範囲をこえて、三好地域で考え協議するほうが良いというのであれば、新たな協議会を立ち上げないと出来ません。

委員

この協議会では早くから、3校を2校にしても、やがては1校になるという意見も出ていました。しかし、この協議会は2校を1校にするということで始まっているのだからと、何度も確認してきました。それが、全部元に戻してみんなの意見を聞くというのはちょっとおかしいのではないかと思います。

委員

先程の意見は、協議はかなりやり尽くした感があり、個人の意見なので良いのではと思っただけです。

要は、子どもたちのために再編するのであって、地域のためにするのではないという思いです。

委員

この会は、辻高校と三好高校の再編を協議する場ですが、どこまで報告できるのか、次回、十分議論してまいりたいと思います。

以上で今日の協議を終わりたいと思います。